拾遺集

下巻

911.19
カ
2

任藤精林集二編

西崖居士撰

秀通蒼海文庫

狂歌檜材集二輯

面堂安久樂先生撰

琴通舎雅海大人撰

十二上 [illegible] 稜 今

十二上 [illegible] 杜弄房

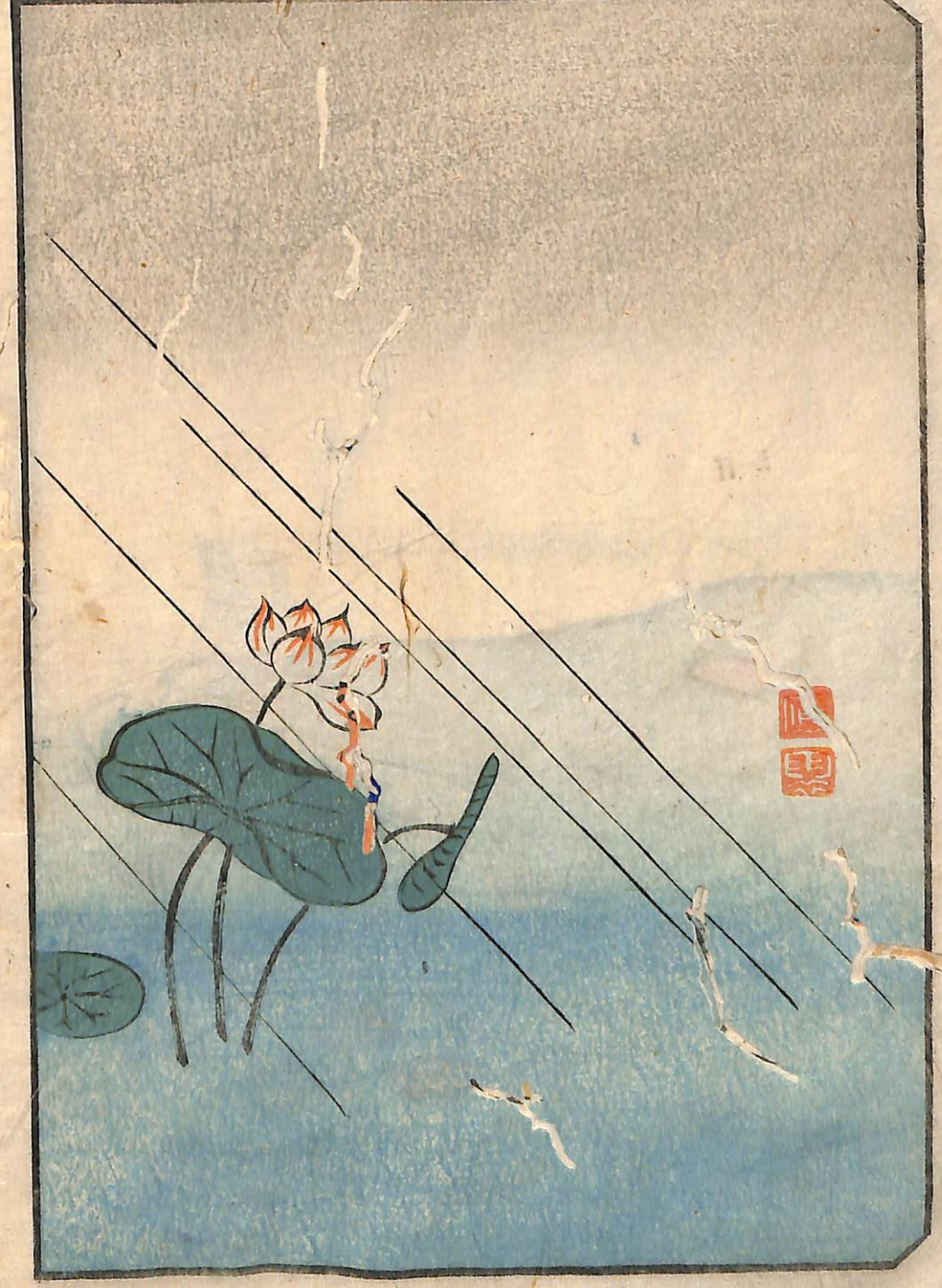
十二上 [illegible] 雲のつ

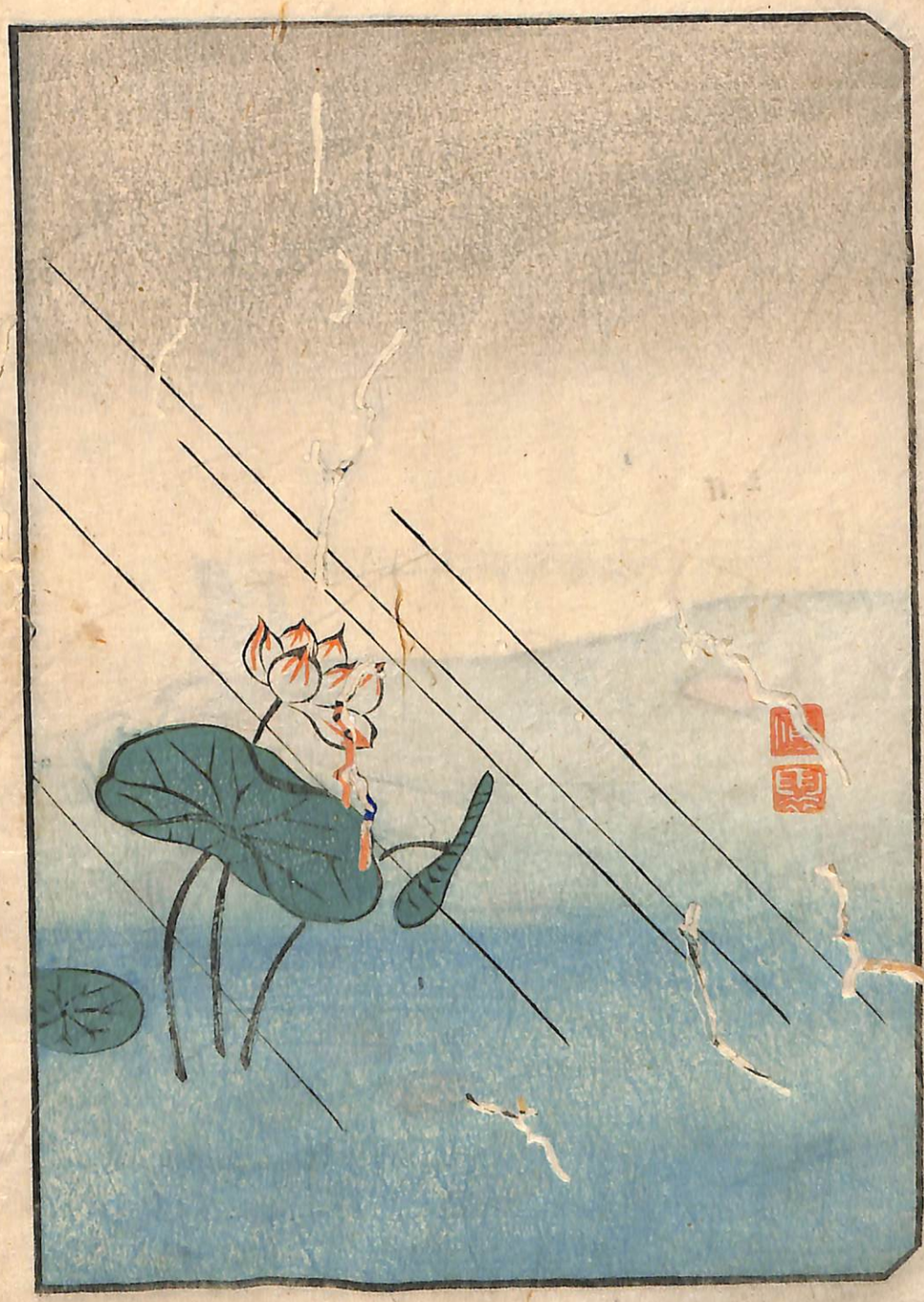
十二上 [illegible] 香保曲

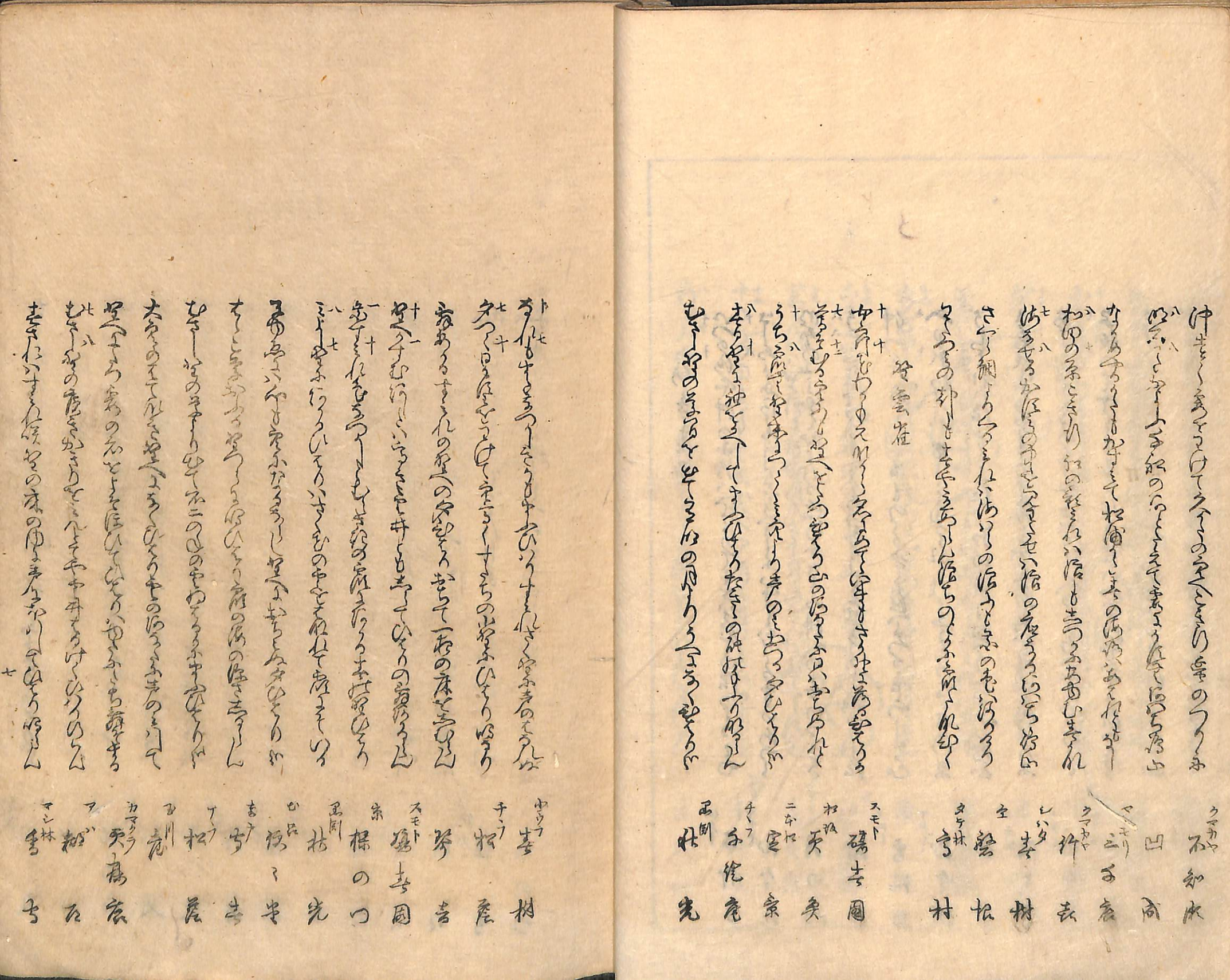
十二上 [illegible] 張山

十二中 [illegible] 浅吟社

十二ハ 変の粉の [illegible] 杜弄房







[illegible]

曲水宴

[illegible]

社頭新樹

[illegible]

十三 十 出る池のかくれも声をとゝける蛙ハさりし
十 十 宿たる池のかくりゆく蛙の声のひゞきも[illegible]
十八 あく蛙の声さぬ神まかて[illegible]池の[illegible]
八 十 声[illegible]おちる池の[illegible]蛙の[illegible]
七 いくかへ池のひゞきの声[illegible]蛙の声
[illegible]池の[illegible]声[illegible]蛙の[illegible]
一 十 池の声を声かしこまひく蛙より蛙の声行もなきつゝかつ
八 八 聞ゆらしもとの池の木のかに蛙かるとの蛙のかくらん
あかねさし池のなりの中に千声もつさく社の蛙
七 八 雨のよりおちる池のさゝ声ふむゝてすまし蛙の初元
池青のきらくの[illegible]らし声を蛙のけるやうゝまゝらん
池ハかし声すまゝく蛙の根まのあやの元
池の声をきくも深きさ夜の月に蛙のかく声もちそハつ

角田	浅	芳
	凹	成
カンカン	蒲	月
大平	清蘆	周
オカシマ	以	庵
トヤウ	水	玄
己林	香	弓
尖川又	三千	俊
角田	信	芳
松フ	隣	弓
	石	於
クマカヤ	一番	山
	信	以

雨中蓮

七 十二 あさ月と花のさかりもさき揺らるゝこの池
青みあさりしく雨はまなてすみゆくも清くすゝしれ
八 十 池の中く雨をきとあてうつらふきぬを縁も池の青葉
十 七 そよりかも蓮の葉をうつ雨のあらき汝の[illegible]さらん
七 十 蛍清き[illegible]清れて雨うつて揺らく池の青葉
はなのてあさうらひてもまろびける雨にみちちる
一 十 たえる葉を[illegible]雨[illegible]池の蓮葉
雨の[illegible]
八 十 池の[illegible]
たかるしくれ[illegible]
七 八 すゞしさも[illegible]
ト 十三 あつさ[illegible]池の[illegible]

大寺林	梅	孫
後ナカヲ	梅	堂
アマツ	清	岳
西川	毛	人
松フ	信	弓
丘コ	苦	石
大平	清蘆	園
宮月	桑	丸
和田	交	兵
天代	霜	之
大平	清蘆	周
	梅	秀

萩宮流

宝湯寺

田家秋夕

八十 ひきとめむ鹿の門田のかりほとよそふ夕けふく煙たなひきて　クマガヤ 寿来庵
十十 隠れたる門田のひたにかゝりてや秋の寝覚もかはらぬ　立
八十 冬枯はへたてぬ鳥の庵のさひしさよ小山田の庵　カタクラ 淡斉
吟かさし山田守る身はおのれのみさひしさかゝ秋の夕くれ　マシモリ 三千庭
かへる鹿のよそにまつてらの声も身にしむ秋の夕くれ　岩月 云度
十七 新そはて稲よりさきに庵さしむ秋の夕くれ　カタクス 淡斉
七十 帚とりてしる山田のほとりさひしさのあはれまさる秋の夕くれ　西川又 石孝
鹿の声は門田の稲葉にかよひ庵のまきのへに秋の夕くれ　四成
林まてかへる田の庵の庭さひれまさる庭の夕くれの空　万久伝
一 前に三 山の鳥のとりかせしひく山の庵の夕くれ　タマナヤ ふ知脈
十一 昔の門田のくもりあへる鹿の夕への鳴く声すむらん　チクラ 千悦庵
一十 鹿の声にせまりてくる稲より袖しほるゝ秋の夕つゆ　凹成

八八 むかしの山田の夕くれは稲の葉すへて袖のつゆかな　オヤシキ 明庵
八 刈はてし門田のひくさひしさに稲をさして秋の夕くれ　川又 友雪
ひとつまつこゝに家をやとりてゆくさひし秋の夕くれ　カクタ 寿守
八七 むかしの夕くれは門松の寝覚こそ夕へのさひしき秋の鹿の声　寿久
七八 栗しけき庭さへもあはれなる声の都も秋の夕くれ　清斎守
刈あけたる門田の稲のよそにてかる鹿の庵の夕くれ　ウラヤ 井店
あはれせは門田の稲にまよふ身もあはれやる秋の夕くれ　セ尾 稲成

残紅葉

八十三 古郷の鹿の声きの夜のかせもみちて千代に残る　シハタ 寿樹
八十 あかしの紅葉のちらぬはいまさらにもみちの錦　石川 林充
見ぬる人やありとこそふして岩紅葉さらに　アカ 粉石
十 ちりしてかへ風にとりかへしもみちの林のゝこるかつらちる葉　川又 三千俊
おもひての稲あるかつら葉の春の袖やさかりの山　カクタ 淡斉

夜明け

[illegible]

初遠恋

[illegible]

月花恋

[illegible]

十一 持よもちりとすゝ名し庵の戸を早く月のよくる影かな　スモト 礫亭圓

十 努れとも行すゑかく手のかれ月をいふかく切る　伊ら尾 桃葉

八七 ちる後さの影りとむすぶ霜の上の露とゆくまてや月かな　スレ于ハ むらく女

八七 とおりくる人も時て月の影よ冬の影りを持く折りさ　オカヤマ 几庵

十七 こゝろ袖の行衛を月の影をやして影る花をよのさ　レハタ 雲松

七八 かりしとりかちりして冬さの空さてあられかく影ん　ヤマト 一村

宿の戸よさしのりゆくすむ月をかりしる後の影りりやせん　川又 浦尺

いくせん影るさひの宿の中しきりさまてゆくさ月れ　不知水

月かけの影さふくや月ふりもあの三れ冬影りそよみりける　陸明

寄秋燕

十三十 千月の長きりくのこおかふれしてさきさりかくきも冬をへ　腰毛

廿十 かもちり影おかけたのてうれなりかさ手く藤のとらさむいて　月のつ

来千よそ千かゝる影とするさ中とりしやひろさ人大の影となる　野峰

十十 此人の手向けりけるけふのゝ手かひあかりの長しするかれ　スモト 石斗

将今名のおとし床の行さんと寺あ床を手く人寄代余い　オカヤマ 几庵

あゆあかそふ来るすの冬花子や寺すり納のくもよ冬　川又 友雪

ころ長の行く冬手の几持人妹と庭れの床をいりしそ　サクラ 呑虎庵

十七 うけりゆん手影れるの水の手すみの影そりそく　全

夜を手る宿さ名を長さの名のくもさまて日かゝさすさ　下野 柏斗

七十 かとまあの月けとりそくりいとすらあすまかれ　スモト 石斗

十一 時ら人のもろの秋のひろかの庭の冬とさひき　三口 呉石

八八 時もして庭あのるりかく月の小庵すさ冬とくさ影　凹成

十一 三夜かりのあひりくきといかれ長の手寄てとすうかのい　大平 清簾圃

八七 三起りと世あ人事と長すさてひとり大れの床の紅行　アハネ 交雪

八七 ゆかる人妹る門の手をまとて神やさとすくろの国大　石文

千見ら人合ろかて一声からかまてせと門あかり大　清明

竹不改色

十八 耳とくもあらぬつらさもたえかねのいでてきこゆる昔とりかも　クマカヤ ふ知所

十七 うらみ一秋のはじめをつげて枕にはまづ来りて身をしめるかな　喜久

七十 目にもとく耳にさへこそありし身のうさをさそふ夢とりかも　ヒタ 碧松

十 まつ人の身のうへつげて昼も鳴こゑぞなにかのさそひなるらむ　クマカヤ 竹衣

十一 秋のよをいつはりけるか庭竹のそよぐのきにも鳴てさめてきさ　タカサキ 石文

八八 かぜのこたへてそのまゝたりけるを加へてかへる夜も行よなの身かい　十二八 雲の門

ちる花をうつしてむかしの身をなげてかへらん夢さめてつくる　二本木 定京

八 耳も目もうとくなりぬる老の身も昔はむかしとたはぶれ　川又 友吉

八 七 ゐなかにとゝまりしは老かけらもなからん　アバ 鶴石

七八 うれはかすかにさしそひぬ人の老ふりてまちつゝわれのみ　スヒナ本 久米

こゝのかたつるまは老よるもあゐの世をはなれのむかしとて　万之助

寄恋祝

十 ほ いはひし春の日すむ恋ようかるとよとこそあるなへとかさなん　瓊屯

十 十一 若代の恋をよいこて契りしをわすれぬ世のちぎりかなさ　トチキ 水表

十二 七 からさくまでも身のうちをさすらふ代の恋となるを紀　川又 石吉

八 十 またいづこさわしらで君の代の恵みにおそふ恋かれ　スヒナ本 芳子

七十 うきの思さ君まちひとつてはたとの恋もかよふ代の恋　湯月堂

十 一 君が代の千代にかへ代をかさね　ことはかふ恋はよろこびの友　キクカ 松蔭

七 く 池の面に影をうつせ恋の千代をいはひてかさねる代には行ぬる　クマカヤ 米山

若もせる世の中をかさねていはふ千代の行きそのむら　アマツ 清良

常夜春貝　閑亭主人撰

十三 朝ぼらけ不二はかすめる四方の空ちかひを今てさかへる

月見よ秋をまちて旅を渡のそらにさかへる千年　幸門

全 夏貝　文栄園主人撰

十三 俤しのびよりあひてさゝくれてあさゆうにまつ人にも逢て　文以

夜となく夜をまちつゝさしても日をかさねきゆうして待ちかねて　不知所

檜垣
月次
檜林集二輯
兼題十八種
撰者 面堂先生
琴通舎大人
補助 檜垣連
會主 春友亭梅秀

左

従八十一点至五十三点

スモト 璞舎
ヱチゴ 狂歌房
カクタ 月の園
ナヽフ 醸春門
川又 禁の門明庭
柳桜園綫芳
千諺庵
桃樹園三千後
項月亭凹成
雲帯園方久住

従五十二点至四十八点

仙タイ 柳麻堂綫尚
中浦 山本春樹
クロフチ 玉露園秋光
サノ 文の屋道丸
チヽフ 千葉庵松陰
仙タイ 浅開庵友篤
ヒハタ 椥園春樹
川又 浅梅園浦風
高松 李園赤良
二本松 桂の屋定邑
マユミ 通至園香保留

従四十八点至四十一点

小タイ [illegible]
アヽ [illegible]
仙タイ [illegible]
仝 [illegible]
[illegible]
岩月 [illegible]
川又 [illegible]
スモト [illegible]
岩月 [illegible]
トナラ [illegible]

従四十一点至十三点

岩城 [illegible]
天川 [illegible]
カクタ [illegible]
ト二日 [illegible]
[illegible]
百貫木 [illegible]
サノ [illegible]
ミノ [illegible]
中本 [illegible]
タクタ [illegible]
アハナ [illegible]

右

従七十点至五十三点

ヤカスキ 龍金社
クマカヤ 東夷庵
仙タイ 千柳亭
トナラ 清の門水彦
太平 清藻園
十二八 雪の門
カヽ小松 丹辞園蒲月
クマカヤ 雪守園白圭
檜錦園綫明
京 棣の門

従五十二点至四十八点

マシモリ 桃園三千宿
カケ川 檜松園信明
松風舎琴音
古河 一那庵清風
兵コ 一の屋真道
カヽ小松 丹楽亭美亀
マシ林 中嶋弥直
二本松 台星渕
天王 山逸泥人
松坂 贊屋笑翁
タテ林 梅園梅孫

従四十八点至四十一点

[illegible]

従四十三点至十三点

アマツ [illegible]
タテ林 [illegible]
クマカヤ [illegible]
シハタ [illegible]
三春 [illegible]
[illegible]
マシ林 [illegible]
仝 [illegible]

知學園
短大
6578
36 3.14